

青少年いわて

平成24年度号

発行者：
公益社団法人岩手県青少年育成県民会議

〒020-0045
盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6F
TEL : 019-681-9077 / FAX : 019-681-9078
E-mail : ipayd@cyber.ocn.ne.jp

青少年活動交流センター
TEL : 019-606-1763 / FAX : 019-606-1765
E-mail : ya-center@aiina.jp



目次

いわて希望塾	2	青少年育成貢献表彰	13
塾長からのメッセージ		青少年体験講座(おしごと発見ツアー)	
塾生の感想	4	青少年関係団体意見情報交換会	14
フォトタイムライン	6	ボランティア活動情報交流会	
いわて家庭の日	8	情報メディア活用講座	
いわて親子・家庭フォーラム(盛岡会場)		観武が原まつり	15
絵画ポスターコンクール	9	復興バザー	
いわて親子・家庭フォーラム(大船渡会場)		職場体験	
子ども・家庭・地域に関する交流セミナー	10	活動助成事業報告	
青少年を非行から守る県民大会	11	情報発信・相談室・ボランティア募集	16
わたしの主張岩手県大会	12		

平成 24 年度

いわて

【講話】塾長からのメッセージ

「復興元年 いわて」

岩手県知事 達増 拓也

はじめに『復興元年』

岩手県では今年を『復興元年』と位置付けています。今年が復興を軌道に乗せ、加速させる重要な一年だからです。

1 復興計画と現在の状況

平成 23 年 3 月 11 日の震災を受け、岩手県では、昨年 8 月、復興計画を作りました。

基本計画は 8 年で、平成 23 年度から 30 年度までです。基本計画が終わる頃、中学生の皆さんは、20～23 歳くらいの年齢になっていると思います。その時は、皆さんの知恵や協力も必要となってきます。

復興基本計画では、復興の目指す姿として、『**命を守り 海と大地と共に生きるふるさと岩手・三陸の創造**』を掲げています。この計画には、「人命が失われるような津波災害は今回で終わりにする」という思いが込められています。

➤ 復興にむけて『3つの原則』

『**安全の確保**』：津波により再び人命が失われることのないようなまちづくりや、道路や鉄道をつくり直していくこと等です。

『**暮らしの再建**』：一日も早く暮らしが成り立つように、仕事や住まいのサポートを行っていくことです。

『**なりわいの再生**』：水産業や商業等の産業が復興するように、サポートを行っていくことです。観光で多くの方々に岩手に来ていただくことは、被災地の復興支援にもつながっていくと考えています。



青少年が市町村の枠を越えた交流や復興に臨む方々からの学びを通して、岩手の地域づくりを担おうとする人材を育成するため、岩手県内の中学生 175 人を対象に「いわて希望塾」を開催しました。

期 日：平成 24 年 10 月 6 日（土）～8 日（月）

会 場：国立岩手山青少年交流の家

参加者：中学生 175 名

青年リーダー 29 名（地域で活躍する青年）

内 容：塾長である岩手県知事の講話や、震災をテーマとした講演、グループディスカッションを基に、「未来への宣言」と題した発表を行いました。

＜主なスケジュール＞

日 程	内 容
10/6（土） 1 日目	開会・オリエンテーション アイスブレイキング 講話「復興支援活動について」 いわて GINGA-NET、参加学生 テーマ別ディスカッション 「未来へのヒント部屋」
10/7（日） 2 日目	ワークショップ 「自分たちにできることを考える」 コーディネーター：山本克彦氏 （岩手県立大学社会福祉学部 准教授） 塾長からのメッセージ 「塾生に期待すること」・塾長との対話 塾長：岩手県知事 講話「私たちにできること」 アンダーエイジさん(吉本興業所属) グループ作業
10/8（月） 3 日目	発表準備 全体発表・「未来への宣言」 希望塾のふりかえり 閉会・解散

希望塾

平成 24 年 10 月 6 日(土)～8 日(月)

2 「復興、そして飛躍へ」

今後の飛躍に向けての取組みや明るい話題を 4 つ紹介します。

1 つ目は、**平泉**に関することです。

昨年 6 月、平泉の文化遺産が、ユネスコ世界遺産に登録されました。岩手県の私たちや東北の方々にとって大きな喜びであり、誇りです。

私たちも、悲しみを乗り越えて復興を成し遂げた平泉をモデルに、将来の人々を感動させるような岩手の復興にしていきたいと思っています。

2 つ目は、**国際リニアコライダー (ILC)** です。

ILC とは、世界中の研究者が協力し、ひとつだけ建設しようと計画している大規模研究施設のことです。建設されると、学術や経済、産業、まちづくりなど、あらゆる分野に大きな効果が期待できます。ILC により、10 年間で約 5.2 兆円の経済効果が見込まれるという試算もあります。県では、震災からの復興の象徴として、ILC の岩手への誘致に取り組んでいます。



3 つめは『**国体**』です。

平成 28 年に本県で「第 71 回国民体育大会」が開催されます。愛称は「希望郷いわて国体」、スローガンは「広げよう感動。伝えよう感謝」と決まりました。

「東日本大震災津波災害からの復興の力となる大会」、「岩手の魅力を全国へ発信する大会」を基本方針とした大会です。

今 13 歳の方は、4 年後 17 歳、高校生になっています。スタッフの一員としてお手伝いしてくれる人や選手として出場する人が皆さんのなかからも出てくると思います。皆さんで盛り上げてほしいので、ご協力をお願いします。

4 つめ、**NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」**が平成 25 年 4 月 1 日から放送されます。東北・三陸の小さな田舎町が舞台という設定で、主なロケ地は久慈市です。テレビ放映の効果で、岩手県や沿岸市町村へ多くの観光客にお越しいただき、いわての復興の様子をご覧いただければと期待しています。



3 みなさんに期待すること

大槌町の野球少年のポスターには、「もう、野球はできないのかなって思ったんです。そんなとき、全国から野球道具が届いたんです」と。そして、「大好きな野球ができてうれしいです」。今、学ぶことができる、やりたいことに打ち込める、当たり前と思えるようなことにも感謝の気持ちを忘れずに大切にしていきましょう。

みなさんに期待することの1つめは「積極的に、考え、議論し、行動すること」です。

先月、野田村の野田中学校で、「復興教育」の取り組みを見学させていただきました。復興教育というのは、皆さん一人一人に将来の復興を担う人になってほしいという願いで始められたものです。みなさんの学校でも、普段の授業や活動で、復興について考えたり、話し合ったりするときがあるでしょう。野田中学校の復興教育では、被災経験をバネにし、これから自分たちができるボランティア活動について前向きに意見交換をしていました。ボランティアをする側、受ける

側の両方を経験しており、考えが深く、着実な成長を感じ心強く思いました。「考えること」「議論すること」そして「体を動かし行動すること」はとても大切なことだと、私は思っています。

2つめは「つながりを大切にすること」です。

発災以来、国の内外から、多くの励ましやご支援をいただいています。地域が復興していくためには「地元の底力」とともに、「様々なつながりの力」が必要です。みなさんも、人とのつながり、地域とのつながりを大切にしながら、自分自身を見つめ直し、社会との関わりを考え、いわての未来をしっかりと担ってほしいと考えています。みんなで一緒に頑張っていきましょう。

岩手県は今回の大震災から必ずや復興し、以前よりもっと素晴らしい地域になるものと確信しています。そのためには、県民一人一人の力が必要です。若い皆さんの力に期待しています。これからも、復興を成し遂げるまで、いろいろな形で協力をお願いします。

塾生の感想

私はこの「いわて希望塾」に参加して被災者の思いを知ることができました。岩手の同じ中学生の意見も初めて聞いて地域向上のためにすごくためになりました。また、友達もたくさんできたり、いい体験になりました。私は今後、地域のためにも、被災地のために子どもの明るさと元気で岩手を向上させたいです。

知事が「人とのつながりを大切にしよう」とおっしゃっていたことが、印象に残りました。今、僕達中学生も地域との交流、つながりを大切にしていることを、知事も目指していたからです。

わたしたちが学んだことは、知事がおっしゃった「積極的に議論し、行動すること」です。仲間と話し合い、互いを高めあうことで、学校全体がよくなっていくと思うし、自分のためにもなると思いました。

県内各地から、中学の先輩、知事、アンダーエイジさんから、貴重な意見、お話を聞く事ができました。「人とつながる」事は中学の三本柱の一つ、「ボランティア」を次なるステージにいかせられるよう、積極的に参加していきたいと思います。

このいわて希望塾で GINGA-NET で言っていた、「思いをカタチに」を学びました。考えているだけじゃ何も始まらない、カタチにするからこそ意味があるんだと学びました。とても有意義のある3日間を過ごすことができました。僕は岩手のためになるのなら、いろんなことをしていこうと思いました。

青年リーダーから

岩手県立大学 3年 瀬川 輝美

3日間を思い出した時、どんなことが頭に浮かびますか？出逢った仲間たちを思い出して、自分の道を歩んでいって下さい。青年リーダーも中学生のみんなに負けないように頑張ります!! 中学時代にしかできないこと、きっといっぱいあります。いっぱい笑っていっぱい泣いて“中学生”をしてください。最後に私の好きな言葉を贈ります。“勝つことよりも負けないこと”本当にありがとう。

岩手県立大学 2年 小原 裕也

「3.11以降、現地へ行ったことがある人！」と問いかけたら、多くの人が手を挙げたのを覚えています。正直、中学生はなかなか現地の様子を見に行ることがなく、中には「風化」してる人があるんじゃないかと思っていました。でも、違った。皆は、岩手で起きてしまった現実、しっかりと向き合っていました。預かってきた地域の声、一人一人が考えた「自分にできること」について話をする姿には素直に感動しました。

皆一人一人が大きな力を持っています。希望塾で見たこと、聞いたこと、考えたことを家族や友人、周りの人たちに伝えていこう！どんどん仲間を増やしていこう！そうすれば、岩手はもっともっと良くなると思います。未来の仲間たちへ。一緒に顔晴って、素敵な岩手をつくっていこう！また会いましょう！

塾長である岩手県知事との対話で。「復興」や「地域づくり」についてのたくさんの質問に対し、一つ一つくわしく説明している知事を間近で見て、こんなすばらしい知事が岩手のリーダーだということが「ほこり」だと感じました

わたしは、知事の話聞いたことが特に印象に残りました。「岩手の現状」や「これからの岩手」はもちろん、「新しく行おうとしている事業」や、質問をすることでわかった「未来の大船渡」についてもくわしく知ることができたからです。今回のいわて希望塾に参加して、多くの意見を聞き、新しい発見を見つけることができました。わたしは、これから、復興が少しでもはやく進むように、ボランティアに積極的に参加していきたいと思っています。

わたしが学んだことは、まだ復興への道のりが長く、まだ県民の力が必要だということです。ほかに、知事は復興への足がかりとして、国際リニアコライダーの建設や平泉の世界遺産について、本当に熱い考えを持っていて、本当に希望との対話を受けて、今後は復興に向けて、しっかり希望や思いを持って、ボランティア活動などをしていきたいです。



印象に残ったことは、知事の話です。「リーダーとはどんなものか？」という質問に対して、「その集団やそれが一番好きなのは私と言えるのがリーダー」とおっしゃっていました。また、どんなことを聞かれてもすべて答えることができていました。そういう人になら、ついていきたいという気持ちが強まると思いました。

私が印象に残ったことは、知事との対話です。初めて今の被災地のことをくわしく教えてもらい、支援の大切さやこれから自分達が必要とされていることを知れたからです。また、私が学んだことは、「思ったら言う、思ったら行動する」ということです。私は前の自分よりも岩手を背負っていくという意識が高まりました。

いわて 希望塾



青年・学生リーダー勢ぞろい



GINGA-NET(参加大学生)が、お話ししました。



話の合う仲間と、とことん話しました。



「できること」
みんなで一生懸命考えました。
☞講師の山本克彦県大准教授

1 日目

10月6日(土)

受付・入所

14:00
開会
オリエンテーション

14:40
アイスブレイキング

16:30
復興支援活動
について

18:00
夕食

19:30
サロン
「未来への
ヒント部屋」

22:30
消灯



みんな緊張しています



緊張が解けてきました。



食事の時間は、楽しみのひとつ。みんなニコニコ(^_^)/



2 日目

10月7日(日)

9:00
ワークショップ
「私たちにできること
を考える」



みんなで考えたことは、きれいに仕上げます。



塾長はリーダーとしての必要なものとして「誰よりもその集団が好きになる事！」と話しました。そして塾長は、「誰より私が一番、岩手が好き！」と話しました。

塾長との対話では、次々と手が上がり、「復興」「いわての将来像」「地域づくり」についての質問に分かりやすく答えていました。

最後に中学生ができることとして、「積極的に考え、議論し、行動すること」「つながりを大切にすること」と、エールを送りました。



14 : 35
講話
「塾長からの
メッセージ」

15 : 20
塾長との対話



塾長に直接、聞いてみました。

16 : 30
講演
「私たちにできること」
アンダーエイジ
(吉本芸人)



震災後、岩手に住み「自分たちができる支援」を行っている。笑いあり、苦労話ありのトークに、塾生は聞き入っていました。

3 日目

10 月 8 日 (月)

9 : 40
未来への宣言
(全体発表)



班ごとに仕上げたポスターを前に、「未来への宣言」みんな、力強く宣言しました。



12 : 15
昼食

13 : 00
解散



みんなで最後の食事でも楽しく、いただきました！



3 日間で熱くなった想いを胸に、故郷へ



岩手県青少年育成県民会議では、毎月第3日曜日を「いわて家庭の日」として、親子・家族のふれあいを深める運動を推進しています。家族での食事や。家事分担、子どもたちの過ごす時間の大切さを改めて考える日にしましょう。

■いわて家庭の日運動は

家庭では

親子・家族の絆を深める日にしましょう。

■月に一度は家族そろって食事をしましょう。

■親子一緒に地域の行事、自然と触れ合う・遊ぶ活動しましょう。

■今日の出来事、将来の夢など、ゆっくり家族でお話しましょう。

■早寝、早起き、朝ごはんを実践しましょう。

「いわて家庭の日」は

青少年の健やかな成長のために、家族・親子のふれあいを深めるきっかけとする日です。

主唱：（公社）岩手県青少年育成県民会議
推進協力：岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部

地域では

■地域の伝統文化を伝えていきましょう。

■子どもたちとのつながり、ふれあいの機会を作りましょう。

■事故や犯罪から子どもたちを守りましょう。

企業・職場では

■ノー残業デーなどの家庭生活充実や子育て支援

■青少年ボランティア活動への支援

■「いわて家庭の日」のイベント企画など



盛岡会場 11/4

アイーナ(いわて県民情報交流センター)



アイーナ会場では、NPO 法人ジェントルハートプロジェクト理事の小森美登里さんの講演を中心に開催しました。

小森さんは、「いじめって何ですか？

～いじめに対する大人の認識を考える～」

という題で、当時15歳だった娘の香澄さんをいじめによる自殺で失った話をDVDの映像を交えて講演し、



いわて親子・

参加者は静かに耳を傾けていました。

小森さんは、自殺する人は弱いのでしょうか、いじめられる側にも原因があるのでしょうか、そしてやられたらやり返しなさいと教える世の中でいいのでしょうかと問いかけました。香澄さんは、自殺の数日前、「優しい心が一番大切だよ」という言葉を残し、小森さんはこのメッセージを全国の学校や講演会で伝え続けています。

講演後の岩手県立盛岡第四高等学校音楽部によるさわやかな、素晴らしいハーモニーは、参加者の心を魅了しました。

平成 24 年度「いわて家庭の日」

絵画ポスターコンクール入賞作品



【生徒の部】「家族の思い出」
岩手県立平舘高等学校 2 年 鎌田 千穂さん



【児童の部】「家族で大根ほり」
二戸市立金田一小学校 6 年 五日市 佳音さん

優秀賞： 泉田柊翔さん(盛岡:城北小 4 年)、村上天馬さん(奥州:水沢小 3 年)、
福井 蘭さん(北上:北上中 3 年)、佐藤 楓さん(花巻:花巻北中 2 年)

優良賞： 後藤未那美さん(金ヶ崎:第一小 5 年)、尾形駿介さん(山田:豊間根小 5 年)、沖田光潤さん(滝沢:鶴飼小 1 年)
藤澤穂香さん(奥州:水沢小 3 年)、千葉雄哉さん(奥州:衣里小 3 年)、小田島萌子さん(北上:北上中 2 年)

大船渡会場 8/4



リアスホール(大船渡市民文化会館)

常に我慢を強いてきたと思う。今、家を立てて、しゃべれる、怒れる、笑えるということが自由にできる。

▶吉田忠雄さん(赤崎地区公民館運営委員長)

子どもたちと地域の大人との絆を大事にして、接触する機会をたくさん持つべき。それに地域公民館が関わっていく必要がある。

▶船戸義和さん(NPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパン緊急復興支援プロジェクトマネージャー)

町の復興には、馬鹿者、若者、よそ者の三者が重なり合って力を出していくと良い。今から 10 年後の大船渡を考えた時に、子どもたちの目を見て、この子たちがこの先の大船渡を作っていくのだと思った。その子どもたちの可能性を広げていくのが我々よそ者の役目と思う。

家庭フォーラム

大船渡会場では、IBC 岩手放送アナウンサー菊池幸見さんによる「ふるさと心～方言詩の中の子もたち～」と題された講演は、テレビやラジオでおなじみの巧みな話術と軽妙な方言の語り口で、観客を魅了しました。

シンポジウムでは、「子どもの成長と家庭、地域の支援を考える～ふるさと復興に向けて～」というテーマのもと、前紫波第一中学校長佐美淳さんの司会で、3 人のシンポジストの方々が、御自身の震災時における経験も踏まえて意見を交わしました。

▶及川滋子さん(越喜来小学校 PTA)

震災以来、避難所、仮設と移り、子どもたちには



葛巻会場 12/15

葛巻町グリーンテージ

「子ども・家庭・地域に関する交流セミナー」(併催)

親子のふれあいや家庭の大切さについて認識を深めるとともに、家庭及び地域の連携により、青少年を育成する機運を高めることを目的に開催しました。

期 日：平成 24 年 12 月 15 日(土)

会 場：葛巻町グリーンテージ

参加者：育成指導者等 86 名

内 容：

○講演「山村の持つ力」

～食糧・環境・エネルギー問題への挑戦～

講師 鈴木重男葛巻町長

○分科会

第 1 分科会

「心の強い子に育てよう」(子どもの心のケアを考える)

第 2 分科会

「就学前の子育てを考える～絵本の読み聞かせの効用～」(子どもの心を豊かに育む実践から)

第 3 分科会

「親と子のきずな」(童謡・唱歌にみる親子のすがた)

第 4 分科会(併催：青少年関係団体意見・情報交換会)

「青少年の現状、育成の課題～思春期の諸問題を中心に～」

○全体会・交流会



葛巻の未来を熱く語る鈴木町長

第 4 分科会の「青少年の現状、育成の課題～思春期の諸問題を中心に～」の講師のお話しの内容は以下のとおりです。



▶奥寺 三枝子さん(岩手県立二戸高等看護学院副学院長)

看護学校の生徒が野田でのボランティア活動の様子のほか、妊娠している女性の喫煙の問題の報告があった。電話相談の中で、女性からの相談は高校生が多く、男女交際について、妊娠についてなど。

最近、赤ちゃんに触ったことがない若い母親が 20% ほどおり、子育てに悩み、産後のうつになるも多い。中高生に赤ちゃんに触れ合う提供をしたほうが良い。赤ちゃんに触れ合うことが大切である。

▶安藤 長質さん(岩手県青少年育成県民会議理事)

今年の自殺者が 3 万人おり、そのなかの 30% が青少年、900～1,000 人が命を絶っている。その理由は、対人、異性、就活などあり、学校・親は追い詰めで、声掛けをしていくことが必要。何があっても親は子どもを守るのだという姿勢を子どもに示すべきである。

子どもたちには、知識だけではなく様々な体験をして欲しい、本を読んでほしい。親に言えないことも、おじいちゃん、おばあちゃんに言えるような環境づくりが重要である。最後の力ギはおじいちゃん、おばあちゃんがにぎっている。



た。大会には県内各地から約 400 人が参加し、井内清満さんが『かかわり』からみえてくるもの」と題して講演しました。自らの活動を通じた青少年の立ち直り支援には「かかわり」と「あいさつ」が大切と参加者に語りかけました。大会の最後に県青年団体協議会の高橋蔵(おさむ)会長が大会決議表明を行い、閉会しました。



「かかわり」からみえてくるもの

講師：井内 清満さん
(NPO 法人ユースサポートセンター友塾塾理事長)

あなたは子どもが好きですか？

最初に皆さんに「子どもが好きの人」と聞いた時に、多くの人が手を上げました。でも、自分の周りに、毎日毎日近所に迷惑を掛けたり、暴力を振るったり、喧嘩をしたり、夜遅くまで騒いでいたり、そういう子ども、非行少年がいたとします。その子を好きになれるか？子どもが好きですかと言ったら、そういう子どもを含めて全部の子どもを愛せますか？

私は子どもを差別したことや怒ったことは一度もありません。ただし、子どもを叱りつけることはとことんやります。それは、叱るということと怒るということは意味が違うからです。「あんたにしっかりしてほしいんだよ、だから叱るんだよ」という形で叱るというのは、教育だから。どんなに叱っても子どもは絶対にキレないんです。そういうような形でかかわれるのはすごく難しいんですね。

かかわれば子どもは変わっていく

皆、「非行少年困った困った」「不登校困った」と言うけれど、じゃあ解決してよ、となると実はその方法が見つからない。私は、そういう子どもに会って、問題行動を起こした時の内容を、すぐ高校や中学に行って先生たちとことん話し合う。その時に私は言うんです。子どもが学校に遅れて来ます。「また遅れて来たのか」「早く入れ」「教室に行け」とか言うのではなくて、この子は遅刻して来たけど一生懸命来たんだ。遅れて来たけど毎日学校に来ている。「よく来たな、よく頑張ってきたな、早く教室に行きな」そう言ってやると子どもは変わるんです。

少年院から出て来て町で遊んでいる子どもに声を掛けたことがあります。私はどんな子どもも 5 分で携帯番号を交換できます。そして、わざと間違い電話ばかりするんです。「間違えちゃった、お前だったのか、元気かその後？」という感じで。余分なことを何も言わない。そうすると仲間がどんどん増えてくるんです。「オヤジ、元気か？」と、どんどん電話がかかって来るようになります。

子どもへの声掛けはあいさつから

物事ってそういうことをやっていくと、自然に流れが変わっていくんです。ですから、『かかわり』というのは、声掛けから始まっていくんですけども、一番大事なのは「挨拶」です。「おはよう」「おはようございます」「こんにちは」「さよなら」「またね」みんなトーンを上を上げてあげるんです。

地域でそういう声掛けを「きちっと」できれば、その町に非行少年は出ません。挨拶がきちっとできるコミュニティは、非行少年が出ません。私は岩手は初めてですけど、こういう所に大きな問題を抱えた非行少年が少ないというのは、実は皆さん一人一人に、人に対する小さな『かかわり』の心が皆さんの中にあるから、非行少年というものが大きく湧き上がって来ないんだと思います。

人と人がかかわれば、子どもに教える人の気持ちがかわれば、子どもって変わってくるんです。



第 14 回

「わたしの主張岩手県大会」

9/20

県内中学生を対象とする「わたしの主張岩手県大会」を盛岡劇場で 9 月 20 日に開催しました。今年度は、約 5,900 人の中学生が参加、地区大会を経て選ばれた 18 人が県大会に出場しました。最優秀賞を受賞した遠野市立小友中学校の菊池愛利子さんは、職業体験を通じて実感した命の大切さと畜産業の素晴らしさを訴えました。菊池さんは、11 月に行われた全国大会で『努力賞』を受賞しました。

最優秀賞 「『命』をいただく仕事」

遠野市立小友中学校 2 年 菊池 愛利子

職場体験最終日の朝。私は憂鬱な気持ちをこらえて家を出ました。この日は豚の出荷の日であることを告げられていた私は、重い足取りで近所の養豚所に向かいました。豚小屋に入るおじさん、出荷場の職員の 2 人。気配に気づき、逃げ惑う豚たち。すぐるような瞳で私を見つめた 1 頭の豚……。あの日の光景は私の脳裏に焼き付いて今も消えることはありません。

私の家では乳牛を飼っています。祖父母が 2 頭でスタートさせた乳牛は一時は 100 頭を超えましたが、今は 60 頭ほどです。

現在、牛舎の仕事を中心になって切り盛りしているのは私の母です。母は朝の 5 時半から夜の 10 時までずっと働き通しです。そのためなのでしょう。この 1 年半で 2 度も倒れ、救急車で運ばれました。父は母の分まで働かなければならず、私や姉たちも必死で手伝いました。

「母に何かあったら……。」

そんな不安を抱え、毎日病院に通いながら、私はいつも思っていました。

「どうして、こんな仕事に就いたのだろう。」と。

この疑問の答えを見つけるためだったのかもしれませんが。私は、先日行



われた職場体験学習の体験先に、親戚の畜産農家を選びました。養豚を主に行っている農場での 3 日間の出来事は、私の考えを変える体験になりました。

初めて見た、雄牛の去勢。「なぜ去勢するのか」と聞いたら、雌のような柔らかい肉質にするためとのことでした。獣医さんはカミソリでひと思いに切り落としました。人間の欲のために、罪なき動物たちが傷つけられていく……。これは死んだ後も続きます。私の家の乳牛は、死んだ後、処理場に運ばれ、皮を剥ぎ取られ、ランドセルなどになるそうです。むごいと思いますが、これが現実なのです。「大事に育ててきた牛が、ランドセルに……」ショックを隠しきれない私は、涙を流さずにはいられませんでした。

一番衝撃的だったのは、豚の出荷作業でした。3 ヶ月間ただただ、えさを食べ続け、30 キロだった体重が 120 キロになった豚たちは、トラックに押し込まれていきました。嫌がる豚を愛の鞭という名の電気ショックで誘導していきます。泣き叫ぶ豚の悲鳴を聞いているうちに、忘れかけていた、小 4 の時の光景が浮かんできました。そこは豚の出荷場でした。後ろの建物からは豚の泣き叫ぶ声、横の機械の中には血まみれの肉……。血と糞の混じった強烈な臭いが鮮明によみがえってきて、私はその場から逃げ出してしまいました。

「人間とはなんて残酷な生き物なんだろう」と感じている私の心を見抜いたのか、おじさんが優しく、でも、きっぱりとした口調で教えてくれました。

「みんな、他の命を頂いて、生きているのだよ。」

そうなのです。この命のおかげで私が生きていける。私の家族が生きていける、生き物が生きていけるのです。

私は、命の重みをこの目で見、肌で感じることができました。畜産業は決して楽とは言えない仕事ですが、私たちの未来のために生きている動物を、少しの間だけでもお世話できる素晴らしい仕事です。

私は、命のカウントダウンが始まった動物たちを、最後まで世話をし、見送り、次の世代につなげるという仕事の素晴らしさを、父と母の後ろ姿から教えてもらいました。

「重労働で、牛臭い嫌な仕事」ではなく、「命を頂く、大事な大事な仕事」だということを。

平成 24 年度
青少年育成貢献団体
・貢献者を表彰しました

11/4

岩手県青少年育成県民会議貢献表彰式を 11 月 4 日の「いわて親子・家庭フォーラム」席上で行いました。県内で、地道で優れた活動をしている青少年団体、青少年指導者を表彰し、その活動を奨励するとともに、広く県民に周知することを目的としています。

三浦 弘次さん(滝沢村)
日本ボーイスカウト岩手連盟事務局次長

高橋 和恵さん(花巻市)
ガールスカウト岩手県連盟理事

小西 拓也さん(大船渡市)
3 Set Wave
(勤労青少年ホームバトミントン教室講師)

大宮神楽伝承保存会(田野畑村羅賀)

(会長:下坂 弘次さん)

小学生を対象に郷土芸能の伝承活動を昭和 63 年より行っている。練習を通して規範意識の向上や例大祭への取り組みにより郷土への愛着を育んでいる。構成員 53 人

小田代神楽保存会(奥州市江刺区)

(会長:及川 章さん)

百十余年の伝統神楽で昭和 58 年から小学生にも指導をはじめ平成 16 年より「子ども神楽事業」を開催。文化庁支援事業 2 年実施。現在も継続している。構成員 29 人

岩手県 BBS 連盟

(会長:佐々木 一恵さん)

更生保護ボランティアとして 60 年余りの活動実績。非行に陥り、陥りそうな少年たちの「お兄さん・お姉さん」として寄り添い立ち直りや支援活動を行っている。構成員 220 人

るだんて

(代表:高橋 昂廣さん)

平成 17 年 11 月に少年の非行・健全育成を目的に大学生が結成。環境美化活動や警察と連携し非行少年たちへの立ち直り支援活動を行っている。構成員 18 人

第 1 回

7/26

今年度 1 回目は、北上と金ヶ崎の自動車関連の 2 社を見学してきました。**㈱東北イノアック**北上工場では、一台の車が、二万個以上の部品から作られ、工場の中では手作業も多いことに驚きました。**トヨタ自動車東日本**では、車が完成していく生産工程を順を追ってみる事ができ、子どもたちは興味深く見入っていました。「知りたい意欲」を満足させるツアーでした。

青少年体験講座

おしごと発見ツアー

第 2 回

10/28

2 回目は、**㈱岩手ホテル&リゾート(安比高原ホテル)**では、スイートルームを見学、慣れない手つきでのベッドメイキング体験。牧場ではヤギやヒツジに餌やりと楽しい時間となりました。**東日本高速道路****㈱東北支社盛岡管理事務所(NEXCO 東日本)**では、監視室から高速道路の様子を確認。また普段乗ることができない様々な大型特殊自動車や作業車に大興奮でした。



青少年育成支援事業

青少年関係団体意見

情報交換会を開催しました。

5月10日(木)、アイーナを会場に、青少年育成関係団体が、相互の事業の活性化及び連携を図ることを目的に情報・意見交換を行いました。

講師の加藤先生から、被災地域の青少年が悲しみを乗り越える一助となるよう、「今、私たちにできることは、特別な活動ではなく、通常の事業、日常の会話や関わりを通して子どもたちの心のケアが必要」であるとの講演をいただきました。(18機関・団体/35人参加)

講師：ルーテル学院大学総合人間学部教授 加藤 純 氏



情報メディア活用講座

岩手県との共同主催事業として「メディア対応能力養成講座～指導者編～」を県内4か所で開催し、地域の指導者、教育関係者、青少年育成委員など160人が受講しました。講座では、県総合教育センターのプログラムで、実際にパソコンやケータイを使っの、インターネット模擬体験を行い、受講者からは、「実際に触って学べるので、良かった」「こんなに手軽にできる反面、ここまで簡単に情報が流れていることに驚いた」などの声が聞かれました。

県南地区：11/16 奥州市
県北地区：11/27 二戸市
沿岸地区：11/29 釜石市
県央地区：11/30 盛岡市

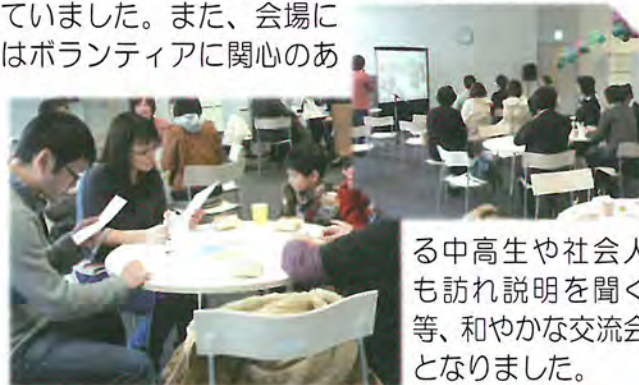


ボランティア活動情報交流会を

開催しました。



2月16日(土) アイーナで、ボランティア団体の相互交流の場として、活動情報交流会「ボランティア コミュニケーションカフェ」を開催しました。活動紹介のパネル展示や模擬店、報告会も行われ会場に集まった団体等のメンバーがコーヒーを飲みながら、互いの活動を紹介し合っていました。また、会場にはボランティアに関心のあ



る中高生や社会人も訪れ説明を聞く等、和やかな交流会となりました。



情報メディア安心講座

～親子向け～

PTA

10月26日(金)、盛岡市PTA連合会第Ⅲブロック研修会におきまして、「情報メディア安心講座～親子編～」を実施しました。NTTドコモ「ケータイ安全教室」スタッフから、「ケータイに関わる犯罪防止のための、フィルタリングの活用」についての講話と「トラブル対応や家庭でできる情報リテラシー」のワークショップを行いました。



小学校

3月4日(月)、盛岡市立河北小学校で6年生と保護者向け「インターネット安全教室」を実施しました。実際にパソコンを使っの模擬ネット体験や「何が危険なのか」「もしもの時、どうすればいいのか」を勉強しました。保護者向けには、「サイバー犯罪に巻き込まれないようにするためにも、家庭の力が大切である」とお話ししました。

「観武が原まつり 2012」 かき氷屋さんで参加しました



9月2日(日)に、青少年会館の入居団体を中心に開催される21回目の「観武が原まつり」に、今年もかき氷店を出店しました。この日は晴天に恵まれ、参加したボランティアの協力もあり、開始2時間で350食ほど売り上げました。「観武が原まつり」は地域のお祭りとして定着し、当日は子どもたちを中心に1,000人位の人が集まり大盛況でした。



「復興バザー」 アイーナで開催しました。

7月から3回にわたり、アイーナの各センターや入居団体、業者らが一堂に介して「復興バザー」がアイーナ4階県民プラザで開催されました。沿岸被災地の商店やグループも出店、たくさんの方が来場して会場を盛り上げました。バザーの収益金は、全額復興支援金として寄付されました。



職場体験事業 中学生が職場体験をしました。

7月の夏休み期間中、盛岡市職業体験事業者に登録されている、青少年活動交流センターで中学生が職場体験を行いました。



盛岡市立北松岡中学校の三人



活動助成事業報告

平成24年度活動助成事業は、「青少年育成地域活動支援事業」と「子どもと向きあう親の講座」の2事業に対して助成しました。

青少年育成地域活動支援事業

- ▶事業名
平成24年度いわて子ども会青少年育成地域支援事業
- ▶助成団体
岩手県子ども会育成連合会
会長 三浦保治
- ▶助成金額
50,000円
- ▶内容
・県ジュニアリーダー研究集会企画立案・実践
・交流活動
・三陸復興バザーへの参加協力
- ▶実施日
平成24年7月～10月
- ▶対象・参加人員
市町村ジュニアリーダー(中高生) シニアリーダー、指導者 225人

子どもと向きあう親の講座

- ▶事業名
家庭教育講演会
- ▶助成団体
なんでもやろう会 代表 村上 保
- ▶助成金額
30,000円
- ▶内容
・保護者対象の講演会を2回
- ▶実施日
平成24年7月13日
平成24年10月5日
- ▶対象・参加人員
見前南小保護者 200人
見前小保護者 50人



情報発信中です。

ホームページ

(公社)岩手県青少年育成県民会議

<http://www12.ocn.ne.jp/~ipayd/>

青少年活動交流センター

<http://www.aiina.jp/seishounen/>

ブログ

青少年活動センター

<http://blog.goo.ne.jp/ya-center>

SNS

twitter ya_center

(フォローしてね！)

facebook Ya-center Aiina

(いいね！してね！)



青少年なんでも相談室

019-606-1722

■電話相談受付時間

月・木 9:00~20:00

それ以外の日 9:00~16:00

※面接相談を希望される方は、電話予約をお願いします。

メール相談

nandemo@aiina.jp

■メール相談

毎日 24 時間受付

※返信は、後日になることがあります。

■相談内容

困っているとき、悩んでいるとき
青少年に関すること

■相談は無料です。

■秘密は守ります。



ボランティア募集

青少年活動交流センターでは、一緒に活動するボランティアを募集しています。
ボランティアに関心のある方、やってみたい方、まずはご連絡ください。



- 会員を募集しています -

○だれでも、いつでも○

(公社)岩手県青少年育成県民会議は、個人や団体の会員の皆様の参加のもとに地域での青少年活動及び育成活動を活発に展開する青少年育成運動を進めています。

この運動は、県民や民間団体など全てのエネルギーを結集して、次世代を担う青少年の育成を目指しています。

この趣旨に賛同される方ならどなたでも加入できます。ぜひご参加ご協力ください。

正会員

年額 《個人》 3,000 円
《団体》 6,000 円

賛助会員

年額 《個人》 1 口 12,000 円以上
《団体》 1 口 25,000 円以上